



site_ 大阪市中央区松屋町 | 細い路地や車道が密集した住宅の隙間を張り巡る。

線状につながる緑地

アスファルトで覆われた車道を剥がし、緑の道をつくることで、車によって占領されていた車道や駐車場を地域住民に解放する。細い線状の公園や小さな広場を通して、木造密集住宅地の中をぐるぐると巡るネットワークが生まれ、屋外カフェテラスやフリーマーケットなど人々のアクティビティが活発にあふれる場所や玄関の鉢植えや近所の人との立ち話など日常生活風景が垣間見える場所など様々な繋いでいくことで、道を介した新たなコミュニティをつくる。

□木造密集住宅地の道路の再編 - 緑の道が住宅や空き地をつなぐ



車道として残す道と緑の道へ変更する道を再編し、歩行者と車を分ける。小さな街区単位で車が走り、その内部には車の進入を防ぐことで、歩行者が安心して使える場所ができる。また、これまで利用していた内部の駐車場はその役目を広場に変え、街の中に小さな中心が点在する。

□熱環境的効果 - 地域の気温上昇を和らげる緑

	浸透性 ×
	熱吸収 ○
	身体性 ×
	環境負荷 ×
アスファルト	
	浸透性 ○
	熱吸収 ×
	身体性 ○
	環境負荷 ○
土+草花	

アスファルトで覆われた道路は浸透性が弱く雨水が溜まり、地下に浸透しない。また、アスファルト自体が熱を持つために、都市部では局所的気温上昇を招く。こうしたことから、道路を緑で覆う事で周辺に比べて気温差が生じ、小さな風の道ができるため、街全体の気温上昇の抑制にも期待できる。